

# 令和4年度 上半期の教育活動を振り返って

福島県立湖南高等学校長

盛夏の候、保護者の皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。また、日頃より本校の教育活動に対しまして、ご理解とご協力を賜り心より感謝申し上げます。

さて、本校では、今年度の重点努力目標として、「生徒一人ひとりを真に大切にし、人間性の育成や能力の伸長と、地域から信頼され愛される学校づくり」を掲げ、教職員一同、目標の実現に向けて努力しているところでありますが、これまでの教育活動の検証を行うために、上半期の教育活動を振り返り、全校生徒及び教職員を対象にアンケート調査を行いました。そのアンケート調査結果は、以下のとおりですので、ご参照ください。

今後は、このアンケート調査結果から見えた課題の克服に向け、教職員一同、努力して参りますので、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。

## 【上半期 学校評価アンケート結果】

		生徒(%)			教員(%)			
		肯定的評価 (A+B)	昨年度 上半期	傾向	肯定的評価 (A+B)	昨年度 上半期	傾向	
重点1	1	学校生活は充実しているか	76.8	79.2	—	100.0	96.2	—
	2	授業は分かりやすいか	82.1	92.5	↓	100.0	100.0	—
	3	朝の学習により学力は向上したか	69.6	75.5	↓	87.0	88.0	—
	4	宿題や課題は提出したか	58.9	58.5	—	63.6	43.5	↑
	5	家庭学習に取り組んだか	67.9	69.8	—	40.9	37.5	—
	6	読書の習慣がついているか	30.4	43.4	↓	91.3	88.0	—
重点2	7	LHRや総合的な探究の時間には積極的に参加したか	80.4	84.9	—	100.0	100.0	—
	8	進路に関する行事がなされたか	75.0	88.7	↓	100.0	100.0	—
	9	個の特性を生かす進路指導がなされたか	55.4	66.0	↓	100.0	92.3	↑
	10	個の希望に応じた進路指導がなされたか	42.9	54.7	↓	95.7	88.5	↑
	11	生徒は資格取得に取り組んだか	35.7	52.8	↓	95.7	88.5	↑
重点3	12	きちんとした服装や髪型ができたか	71.4	77.4	↓	100.0	84.6	↑
	13	きちんとした挨拶を行っているか	67.9	67.9	—	95.8	69.2	↑
	14	学校の決まりや社会のルールを守ったか	87.5	77.4	↑	100.0	84.6	↑
	15	部活動や委員会活動等に熱心に取り組んだか	73.2	69.8	—	91.7	88.5	—
	16	毎日、清掃活動に取り組んだか	83.9	86.8	—	95.8	92.3	—
重点4	17	『湖南高校だより』など、学校の配布物を渡しているか	67.9	69.8	—			
		『湖南高校だより』など、学校の配布物は学校の状況を伝えているか				100.0	100.0	—
	18	ボランティア等の行事に積極的に参加したか	66.1	66.0	—			
		ボランティア等の行事は地域に貢献しているか				100.0	100.0	—
	19	湖南に興味・関心を持っているか	67.9	64.2	—			
		生徒は、湖南に興味・関心を持っているか				95.8	92.3	—
	20	湖南を理解しているか	69.6	67.9	—			
湖南を理解するための機会づくりをしているか					100.0	100.0	—	
21	社会貢献の意欲を持ち、社会をより良くするための行動をしようと思う	71.4	81.1	↓				
	信頼される学校作りに努めているか				100.0	100.0	—	
22	コミュニティ・スクールとして湖南の特色を生かした学び・学校づくりをしているか	76.8	71.7	↑	100.0	100.0	—	

※ 『傾向』の欄は、昨年度と比較して、5%以上増減があったものを矢印で表示している。

※令和4年7月実施

## 【アンケート結果分析】

- 生徒の76.8%が学校生活に満足しているとの評価である。
- 生徒の82.1%は授業がわかりやすいと感じているが、昨年度同期比より約10ポイント下がった。
- 朝の学習で学力が向上したと感じる生徒の割合が昨年度同期比約6ポイント下がった。生徒にとって受動的な朝のルーティンワークではなく、積極的・主体的に取り組むための工夫が必要である。
- 家庭学習への取組に関しては生徒評価は67.9%、教員評価は40.9%であり、意識の差が27ポイントあった。意識の差を埋め、基礎学力の定着を図るためにも、家庭学習に向かわせる指導が求められていると考えられる。
- 読書の習慣化については生徒評価は30.4%と昨年度同期比より13ポイント下がっていることから、生徒の読書離れが課題である。
- LHRや総合的な探究の時間等への参加、進路関連行事の取組については、生徒、教員ともに高評価である。
- 進路に関する行事について、教員の評価は100%であったが、生徒の評価が昨年度同期比より13.7ポイント下がっていることから、主体的に参加している生徒が減少したことが考えられる。
- 個に応じた進路指導に関して、教員と生徒の評価の差に大きな隔たりがあることから、これまで以上に生徒の特性や発達段階に応じたきめ細やかな指導をしていく必要がある。
- 生徒の資格取得に関して、教員の評価は高いが生徒の評価が低いことから、主体的に資格取得に取り組む生徒が少ないことがうかがえる。
- 服装や髪型ができていてと感じている割合が比較的高く、特に教員の全員ができていてと回答している。
- 生徒の約7割が、きちんとした挨拶をしていると感じており、昨年度同期比と同ポイントであったが、教員は95.8%と昨年度の69.2%より26.6ポイント上がった。
- 生徒の87.5%が、学校の決まりや社会のルールを守っていると答えており、昨年度同期比から10.1ポイント上がったことから、規範意識が定着してきていることがうかがえる。
- 生徒の73.2%、教員の91.7%が部活動や委員会活動等に熱心に取り組んでいると回答しており、どちらも昨年度同期比から上昇していることから、積極的に学校生活を送る生徒が増えたことがわかる。
- 毎日の清掃活動の取組については生徒は83.9%、教員は95.8%と高い割合である。引き続き、清掃に対して高い意識を持ちながら取り組む必要がある。
- 「湖南高校だより」など、学校の配布物により学校の状況を伝えていると回答している教員が100%に対し、配布物を渡している生徒が67.9%であることから、学校の状況を確実に伝えるため、その差を埋める必要がある。
- 湖南に興味・関心を持っている生徒が67.9%、教員は95.8%であり、生徒と教員には、27.9ポイントの差があることから、生徒が主体的にコミュニティ・スクールの活動に取り組むためにも意識の差を小さくする必要がある。
- コミュニティ・スクールとして湖南の特色を生かした学校づくりをしていることについての教員評価は100%だが、生徒評価は76.8%である。引き続き授業や行事を通して湖南地域の魅力に気づくことができる場の工夫が必要である。

## 【下半期に向けて】

今回のアンケート結果を踏まえ、次のような点を重点事項として取り組んでいくことを考えております。

- (1) 生徒の家庭学習習慣の更なる定着を図るため、継続的に宿題や課題を課すとともに、手帳に学習時間を記録させるなど、自己管理と自主性を促す。
- (2) 図書委員会を中心に学校図書の整備を行うとともに読書の魅力を発信することで、図書に対して興味関心を持つことができる工夫をする。
- (3) 授業や学校行事、地域の方とのふれあい等を通して、地域愛を育み、湖南地区をより理解する工夫をする。
- (4) 読みやすい、親しみやすい広報紙、ホームページにするための工夫をする。
- (5) 保護者へ文書が渡るよう、生徒への指導徹底を行うとともに、重要な文書については、内容や目的、重要性等について、しっかり生徒へ説明をしながら配布する。
- (6) 湖南の住民とともに魅力あるコミュニティ・スクールにしておくため、湖南の人的・物的資源を生かした教育活動を実践する。

## 【あとがき】

令和4年度はコミュニティ・スクール3年目となります。16名の新入生を迎え、生徒たちは毎日、元気に、充実した学校生活を送っています。

さて、まもなく夏休みとなります。夏季休業中、本校では生徒への進学や就職のための課外学習、学力アップ学習会、そして、コミュニティ・スクールの取組である蕎麦プロジェクトの「そばの種まき」などを計画しています。お子様の自己実現のためにも、積極的に参加するようお声がけをお願いします。

また、夏休みは、学校がある日常生活と異なり、生活のリズムが乱れがちです。お子様が規則正しい生活を送り、この長期間の休みが有意義なものになるよう保護者の皆様のご協力をよろしく申し上げます。